

## は じ め に

本県では、平成20年4月に策定した「健康づくり文化創造プラン」に基づき、県民一人ひとりが生涯自分の歯でおいしく食べ、豊かな生活を送ることができるよう、80歳になっても自分の歯を20本以上保つことを目標とした8020（ハチマル・ニイマル）運動を展開しています。

また、鳥取県8020運動推進協議会を設置し、本県における歯科保健状況の課題や施策体系等について検討を重ね、むし歯予防対策及び歯周疾患予防対策を進めてまいりました。

近年では、成人期の歯周病予防対策を課題に掲げ、県民歯科保健公開講座事業（歯科保健知識の普及）及び8020推進員養成事業（地域における8020運動サポーターの養成）、歯っぴーマザー教室モデル事業（産婦人科診療所と歯科診療所との連携によるマタニティ教室等における歯科健康教育）等を実施しました。

これらの取り組みの評価及び歯科保健目標の達成状況を調査するため、その基礎となる指標を得ることを目的に、この度、第4回県民歯科疾患実態調査を実施しました。

この調査は、鳥取県統計調査条例に基づき、平成7年度以降5年毎に、20歳以上の県民を対象に2,500人の方へ口腔診査や歯科保健アンケートを行うものです。

今回の調査では、むし歯の処置完了者(65.5%)、80歳以上で20本以上の歯を有する者(30.8%)や定期的に歯科健診を受けている者(34.5%)の割合が増加するなど、県民の皆様の歯の健康状態は概ね改善の傾向にあります。

しかしながら、依然、40歳代から60歳代にかけての歯周病罹患率は急増しており、また、70歳代ですでに一人当たりの歯の数が20本を下回る(17.6本)結果となっている現状から、県民の皆様の健康を保つために、今後さらなる歯科保健事業の展開と普及啓発に取り組む所存でございます。

この調査結果が市町村及び関係機関の取り組みにおいても十分に活用されることを期待するとともに、共に健康づくり文化を築き上げていくことができるよう、今後ともより一層の御協力を賜りますようお願いいたします。

末筆になりましたが、今回の調査に御参加くださった県民の皆様及び実施に御協力くださいました市町村・事業所の関係者様、全県的な調査の実施・結果分析に多大に御力くださいました社団法人鳥取県歯科医師会の皆様に心から感謝申し上げます。

平成23年3月

鳥取県福祉保健部

部長 林 由紀子

# ご あ い さ つ

平成7年に発足した「鳥取県8020運動推進協議会」で、県民の口腔内の健康状況を把握し、その実態を分析して鳥取県の歯科保健目標を策定する方針がきまり、同年に第1回歯科疾患実態調査が実施された。

その後平成12年、17年と5年毎に実施し、本年平成22年で4回目の調査を実施した。

今回の調査は各市町村で実施される健康教室の参加者、事業所に勤務する者等を対象として実施し、約2,700名余のデータを求めることができた。

調査結果をみると、むし歯罹患率は95.2%（平成17年・94.5%、平成12年・94.2%94.5%）、歯肉炎所見者率49.2%（平成17年・49.2%、平成12年・39.8%）、喪失歯のある者56.7%（平成17年・52.1%、平成12年・63.4%）とあまり大きな変化はみられないが、一人平均喪失歯数3.9本（平成17年・4.4本、平成12年7.4本）と減少、現在歯数80歳以上12.3本（平成17年・9.0本、平成12年7.4本）と前回調査より3.3本増加している。補綴完了者64.3%（平成17年・58.3%、平成12年・45.0%）と前回調査より6ポイント増加している。

今回の調査結果をみると、鳥取県歯科医師会が長年にわたり取り組んできた歯科保健事業の成果が少しずつではあるがでてきていると思われる。今後も県民の歯科保健意識が向上するよう「歯と口の健康」向上に努め、歯科保健の充実推進に邁進いたす所存でございますので、各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

社団法人 鳥取県歯科医師会

会長 林 伸 伍